

「国内における医療安全に関わるe-learningシステムの現状調査」

研究分担者	浦松 雅史	東京医科大学 医療の質・安全管理学分野	講師
研究分担者	藤澤 由和	宮城大学 事業構想学群	教授
研究分担者	相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院	教授
研究代表者	高橋 英夫	東京医科歯科大学 生体集中管理学分野	教授

研究要旨

本研究は、我が国における医療安全に関わる既存のe-learningシステムに関してどのような状況にあるかに関して調査を行い、当該課題に関する基礎的な知見をうることを目的とした。

結果として、我が国においては、医療安全に関わるe-learningシステムに関しては、その具体的な内容に関しては様々なものが存在しているといえるが、その提供形態に関しては、いわゆる専門家らによる講義などをシステム上に配信し、それを受講者が受講可能な時間に受講可能な場所で受講するという形態を基本的にとっているものがそのほぼすべてを占めていた。また受講者らは、こうして受講した内容に関して、テストやクイズなどを通して、その講義された内容に関する知識的な定着度を把握することは多くのシステムにおいてなされている。

今後の論点としては、当該e-learningシステムにおける研修などが、医療安全の向上にどの程度、寄与するものであるかを明確にする必要がある点を鑑み、医療安全を実質的に向上させていくためには、当該課題に関わる基礎的、基本的な知識の習得にくわえて、どのような教育、訓練が必要であるのかを明らかにする必要があると考えられる。

A. 研究背景・目的

本研究は、医療従事者が医療安全に関するスキルを向上させる効果的なe-learningシステムの構築を目指すものであるが、医療安全に関しては、既に多くの医療安全管理者養成向けなどのe-learningシステムが提供されている現状にある。

いわゆる一般的なe-learningシステムにおけるその特徴は、受講者がWeb上の動画等のコンテンツをオンデマンドで視聴し、その理解度をクイズなどにより評価するというものであることが多いとされる。しかし医療分野におけるe-learningシステム、なかでも医療安全に関わる医療従事者向けのe-learningシステムに関しては、どのような実態にあるのか明確な状況を判断するための情報が十分に存在していないといえる。

そこで本研究においては、我が国における医療安全に関わる既存のe-learningシステムに関してどのような状況にあるかに関して調査を行い、当該課題に関する基礎的な知見を得ることを目的とした。

B. 研究方法

一般に公開されている情報を中心に、当該課題に関わる情報を収集し、集約を行い、それらを元に分析及び検討を実施した。

(倫理面への配慮)

一般に公開されている情報を収集したものであり、特定の臨床的な情報は言うに及ばず、何らかの個人情報に関しても含まれるものではないため、本研究においては、特定の倫理的課題は生じない。

C. 研究結果

医療安全に関わるe-learningシステム（含む感染対策）に関しては、多岐にわたる組織や団体によってサービスが提供されている現状にある。まずいわゆる民間企業などによって提供されているサービスに関しては教育および出版関連の事業を展開する企業などによって提供されているものが多く見られる。こうした組織に加えて、医療分野における教育研修および組織管理などのコンサルティング事業をおこなっている組織、さらにはIT系の組織なども散見された。

いわゆる民間企業とは異なる組織形態をとるものとしては、社団や財団などの形態をとる組織によって提供されているe-learningシステムが多く見られた。当然のことではあるが、なかでも医療関係の組織における当該システムの提供が多く見られるところであった。こうした社団、財団以外においてもいわゆる任意団体もしくは非営利特定法人などによっても一定程度、当該e-learningシステムの提供がなされている状況が見て取れた。

加えて学会などにより提供されるe-learningシステムも一定程度存在しており、またその内容は、いわゆる専門性の高いものとなっている点に特徴があるといえた。加えて大学の部局や附属病院などが中心となって構築されたシステムの提供も見られ、提供主体の幅はかなり広いものとなっていることが明らかとなった。

当該システムの内容に関しては、医療安全にのみならず感染対策なども含むものとなっている。また具体的内容や詳細に関しては、具体的なサービスを伴うものであるため、一般的に公開されている情報だけでは十分な把握が難しい面もあるが、それぞれの提供組織において構築されているものであることが多いと考えられる。とくに学会などが中心となり提供されているe-learningシステムの内容に関しては、当該学会におけるより専門的な内容を多く含むのであると考えられる。またシステムによっては、コンテンツに関しては実際に受講者を抱える組織が独自に開発したものを、当該システムに組み込んで当該組織における受講者らに配信することが可能なシステムも散見された。

またその形式であるが、その多くが講師の講義を動画により提供する、もしくはアニメーションやプレゼンテーションソフトを用いて講義を補完する形で情報を提供するなどの形態が取られており、本調査においては、それ以外の形態におけるe-learningシステムはみいだすことができなかった。

また多くのe-learningシステムにおいては、こうした講義形式による情報の提供を受けて受講者らの側において、情報取得の程度や知識の定着度を把握するためにテストやクイズなどを設けていることがみいだせた。

提供形態に関しては、現在、当該課題に関連して提供されている多くのe-learningシステムがサービスをWebなどのネットワークで提供するなどの、いわゆるクラウドを活用したASPによるものがほとんどであった。そのため、受講者らはPC、スマートフォン、タブレット端末など複数の環境で受講ができる形となっている。

D. 考察

我が国における医療安全に関わるe-learningシステムに関して、提供する組織が多く、その組織形態も多種多様ではあるが、その提供形態に関しては、均質的なものであったといえる。

具体的には、多くの医療安全に関わるe-learningシステムにおいて、その内容はいわゆる講義に動画などを通じて、受講者らに提供を行う形態を取っている。こうした講義にはより受講者らの関心を喚起することを意図して、講師の講義状態の提供にくわえて、アニメーションや動画などを併用しているものも多くあると考えられる。

確かに、こうした形での内容の提供形態は、受講者の当該内容の受講に際しての時間的、場所的な制約を取り除くという意味では、受講者らの利便性を大きく高めるものであるとはいえるが、それ以上の可能性、つまりe-learningシステムによりもたらされる利点に関してはあまり明確なものとはなっていないと考えられる。

たしかに、一部のシステムにおいては、受講者らの受講状態をシステム上に記録することにより、より適切かつ柔軟な形での、コンテンツ提供の可能性も残されているといえるが、この点を明確に打ち出

した形でサービスを提供しているシステムは未だ存在していないといえる。

E. 結論

我が国においては、医療安全に関わるe-learningシステムに関して、その具体的な内容に関しては様々なものが存在しているといえるが、その提供形態に関しては、いわゆる専門家らによる講義などをシステム上に配信し、それを受講者が受講可能な時間に受講可能な場所で受講するという形態を基本的にとっているものが圧倒的なものである。

また受講者らは、こうして受講した内容に関して、テストやクイズなどを通して、その講義された内容に関する知識的な定着度を把握することは多くのシステムにおいてなされている。

ただし、検討を要する論点として、こうしたe-learningシステムにおいて提供され、受講者らが受講した医療安全に関する知識などが、はたして医療安全の向上に本当に寄与しているのかという点に関しては、なんら明らかになっておらず、こうした点の検討を欠かせないと考えられる。

そのためには、いわゆる医療安全を実質的に向上させていくためには、当該課題に関わる基礎的、基本的な知識の習得にくわえて、どのような教育、訓練が必要であるのかを明確にする必要があると考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得（予定）

なし

2. 実用新案登録（予定）

なし

3. その他

なし